

災害支援・教育復興にむけて

つなぐ



日教組災害対策本部

〒101-0003

東京都千代田区一ツ橋 2-6-2

HP:<http://www.jtu-net.or.jp/>

第8次災害救援ボランティア

日教組中央執行委員 大杉周三

第8次は、今までの岩手県東和町のベースキャンプから住田ベースキャンプ（BC）に移り、連合北海道と一緒に救援ボランティアを行いました。復興作業を行う大船渡市にも車で1時間と近くなり、充実した活動を行うことができました。



【第8次災害救援ボランティア（日教組・連合北海道）】

第8次で行ったボランティア作業の一部を紹介します。

○ 市民プールの清掃

津波で大きな被害をうけた大船渡市民プールに溜まったガレキ・ヘドロの撤去や清掃を行いました。50mプールの清掃ということで、とても大変な作業でした。しかし、外国の方を含む数多くのボランティアと一緒に協力しながら、プールいっぱいにあったガレキやヘドロを運んでいきました。きれいになっていく様子にみんなで感動しました。

「子どもたちが楽しくプールで遊べる日常を取り戻す」ということに向かって、みんなが一致団結してできた作業でした。

DAY1 ○ ガレージ兼車庫のそうじ

震災当時(は、家の一部分まで水が入り、家の前の道路は大きな川になってしまい、次々と車が流れていったそうです。避難所から、そうじもしに通っておられるとのこと。

高圧洗浄機で、ハドロや汚水を落とし、排水設備がないので、ひたすら、どろきんやチトリで水をふきとる。
(乾いた後、石灰をまいて消毒する。)

DAY2 ○ 午前中は、昨日の仕あげをしました
○ プールのそうじ(市民プール)

たくさん、個人や団体のボランティアがいらっしやいました。(岩手にALTとして来られている方など)

プールの隣りの体育館には、身元不明の遺体安置場に、山と積み出した土のうをひたすら捨てる所まで、運び続けました。

けいこんきゅーい

○ 側溝作業（道路の溝の掃除）

作業の中でもキツイといわれる側溝作業ですが、みんなで力を合わせて溝からドロを出していくことで、少しずつ被災地の復興に貢献できていると思える作業でした。

「大きな畑では、遠くを見て種を蒔いてはダメ。自分の足元を見て、一つずつ蒔いていき、最後にこれだけ終わったと思うことが大事。」とボランティアで一緒になった農家を営む方に教えてもらいました。



○ 住宅の天井・床板・壁板はがし、ドロ出し、掃除、清掃

個人宅での作業で、お願いされたことを着実にやっていきます。その中で、塩水に浸かってしまったものは、後から臭いが出てしまうので撤去してほしいとお願いされました。依頼された方が「つらくて見てられない」という言葉がとても心に残っています。

「地震が来る前は、目の前が海のきれいな町だったんだよ」という言葉を聞き、「この町が復興したら、また来るのでよろしくお願いします」と話をしました。

